

佳作

(子どもの部)

まぎやくの世界

ひぐらし小学校 三年

清水 環奈

柳田邦男先生こんにちは。

わたしは『へいわとせんそう』という本を読みました。さいごまで読んでくれるとうれしいです。

わたしがこの本をえらんだ理由は、おばあちゃんとおじいちゃんに「妹が生まれたし、家族で読んでみて」とすすめられたからです。

わたしがこの本を読んでいちばん心にのこったことは「みかたのかお、てきのかお、みかたのあかちゃん、てきのあかちゃん」という文と絵です。

なぜなら、みかたもてきも同じ人間、見分けがつかないということが心にのこったからです。

この本を読むまではへいわとせんそう、てきとみかたというのはまぎやくだと思っていました。けれどこの本を読んでへいわとせんそうはまぎやくだけれど、みかたとてきは同じだということを知りました。この本を読んでわたしは考えてみました。赤ちゃんはいつ、どこで、だれのところに生まれるか分かりません。わたしはへいわなところに生まれて本当によかったと思いました。

わたしは「せんそう」をけいけんしたことがないので「せんそう」が分かりません。けれどウクライナとロシアのせんそうのせいでたくさん死んでしまった人がいると思うとすごく悲しい気持ちになりました。わたしはウクライナとロシアのせんそうのニュースを見て、せんそうをなくしたいと思いました。

せんそうをなくすことはまだ子どもなのでできません。けれど小さなことからやってみようと思いました。友だちとなかよく楽しく遊んだり、弟とのけんかをなくしたり、子どもだけれど小さなことならたくさんできます。

わたしはしょう来小に科の先生になって、たくさんの子どもたちを助けたいです。

柳田先生ぜひこの本を読んでみてください。